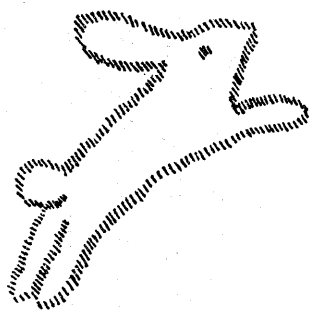


# 『実習生』

燕木 寿江



## 教育実習生のしおり

「保育とは、心を育てることである。心は心でしか育たない」の実践（真理）に基づき子どもから学ぶ姿勢で、実習されることを希望します。

実習時間 八時より四時三十分迄

保育日誌 記入方法は各校指定のもの、或いは各自のもの  
もので支障ありません。翌朝園長に提出のこと。

服 装 軽快、清潔なもの。

髪 型 子ども達と一緒に遊べるように、保育時間中は一つにまとめること。

弁 当 子ども達と一緒に食べることも配慮し、栄養も考え、なるべく自分でつめること。

その他

○ 『倉橋惣三選集』第四卷一六五頁の、「気がつく」「手が届く」「行き渡る」を読んで、感銘したこと。

共感したこと、などを（まる写しでも可）保育日誌の  
一頁に記入しておきましょう。

○ 疑問の点は積極的に質問し、僅かな実習期間がより  
充実した日々になるように心掛けましょう。

○ 早寝を励行し、欠席のないように健康管理に留意し  
ましょう。

○ 子どもの名前を覚える為に、一週間前にお渡しした  
園児カードは、実習の終った日に園長にお返し下さ  
い。

○ 「実習生」と言っても、子ども達にとっては師と仰  
ぐ「先生」ですので、言葉づかい、動作など考慮し  
ましょう。

○ 一人一人大切な子ども達をお預りしていますので、  
右のことをお守り下さい。

「日本の人口は何億人とか言われていますが、その多く  
の方達の中で、あなた方と出会ったということは、何か  
の縁があったことなのでしょう。僅か三週間とあって

も、その出会いを大切にしたいと思います。三週間が一  
年に勝る程有意義な日々でありますように——」と挨拶  
をして、手作りの昼食で、実習生を迎える。歓迎会では  
ないが、出会いに寄せる思いが人懐っこくいつも同じ言  
葉を繰り返す。受け入れ側としては責任を全うしたい  
し、不思議な出会いも全うしたい。申しわけないが終る  
とほっとして疲れがでる。同じ幼児教育に携わっている  
者としては、無下におこたわりするわけにもゆかず、現  
に、その学校の先輩諸姉のおかげで、今日の幼稚園があ  
ることを思うとお役に立ちたいと思う。

しかし、幼稚園の先生になる為に実習にくる人、単位  
の為に実習にくる人と、残念ながら前者が四、後者が六  
の割合である。「お姉さんが美容院を経営しているの  
で、その手伝いをします」と、人の気も知らないで堂々と  
言う人もいる。実習中に、「会社の面接テストなので、」  
と言って欠席する人もいる。「落ちついて頑張ってください」と言うが……。何はともあれ、この期間は、幼稚園の先生になると思ってやって下さい。どこへ勤めても

同じ基礎的なことですからと、気を静めて話す。

「子どもの減少で募集が少く、先生になりたくてもなれないのです。一年待つ覚悟でいたらなれるのでしょうか——。今は迷っている最中です。この実習ではつきり決めたいと思います。」……「幼稚園の先生は小さい時から夢でしたが……、ピアノの上手な人から採用されるみたいだから、やっぱり無理なんです。」「昔は貸しピアノというのがあって、二時間六十円だったわ、三台あっても音は聞こえないけれど、脱いだる靴でお互いに気配を感じるわけ、二時間弾かないと損する気がしてね、あつという間に時間が経ってしまうの。」「ピアノは一応あります」「それじゃあ、弾けないのではなくて、弾かないのでしょ」と言うと「そうだ」と笑ってうなづく。それではピアノ以前の問題ではないかと思う。「その人がピアノを弾く時間をつくるか、つくらないか」「根性があるか、ないか」にほかならない。「毎日、二時間も弾いていたら、こんどはピアノの方からあなたを離さないわよ。但し毎日弾くのね。ピアノが話しかけてくる

まで——」。私はこの人の夢を実現してあげたくて夢中になって話す。「各部屋にピアノが一台ずつある幼稚園は日本だけだ。外国では、子どもが歌っているところへ、ギターなり、アコーディオンを持って子どもに合わせる。ピアノはかっいで歩けないし、日本はおかしな現象だ」ということも聞き納得するし、第一自主充実保育の場ではあまり弾くこともないが、そう言ってしまったらおしまいなので、モゾモゾしていると、「時間がないのです」と言う。「時間は天から降ってくるものではない、自分で作りだすもの。」とは言ったものの、現代の学生は忙しいらしい。私はあきらめないで言葉を続ける。「臨界期というのは、乳幼児期だけでなくあなたが入って歩くことを覚えた子どもは腕の力が弱いとか、骨が弱いか言われているでしょ、だからと言ってお母さんのおなかの中に戻すわけにもいかないでしょう。今しなければならぬことを今すること、この時期に大切な必要なことをこの時期にすることよ。」神妙な表情に

なったので、「人間だから融通はきくけどね、そのあとの本人の発達次第で心配はないけれど——」とつけ加える。

津守先生がある講習会で、「教育とは励ますことだ。」

とおっしゃった。五十点満点で十一点とったらいいと言われたことを思いだすからである。只管、よいところを認め誉めることにせいをだす。どんな小さいことでも：例えば、自分から花瓶の水を取りかえていたら、「ありがとう。」と言う。投げかけてくれた疑問には、すぐ結論をださず一緒に考えて次の質問が生れるようにする。



「どうしても幼稚園の先生になりたい。もう悩まずに決めました。」と、別れの会の昼食をとりながら話す。幾筋もの涙に乾杯！ 出会いがあったから、別れが悲しいのだ。「この実習を通して得たことをまた、次の勉強に役立てて、残る学生時代を有意義に過ごしてほしい。」と見送るそれぞれの担任の許しを得て、クラスの子どもの一人、一人に小さなカードを書いて渡していた。女の子には赤いリボン。男の子には緑色のリボンがついていた。

(市ヶ尾幼稚園)